

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：学長室	担当部局：学長室
大項目	1 キリスト教主義教育（研究科）《全学的な視点》	
中項目		
小項目	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。	
要素		
小項目	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。	
要素	(KG1)方針、実施内容	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. ミッションステートメントを基本とする学院のキリスト教主義教育の理念の具体的プログラム化	→キリスト教主義教育を具体化するプログラム企画を整理し、年間を通じての開催計画を明示し、チャペルアワーなども含めて、ほぼ日常的にそれが実施される体制を確保する。	B	B			
2. ミッションステートメントを軸とするキリスト教主義理解の学院構成員への浸透	→キリスト教主義理解を提供するプログラムへの参加者数を把握し、学院構成員の半数を超える出席者が得られるよう、奨励する。	C	B			
3. キリスト教主義教育の成果として、Mastery for Serviceを体現しうる存在としての具体的な行動への奨励	→Mastery for Serviceを体現するモデルとなる存在などを積極的に紹介するとともに、その範に従った学院構成員の活動を積極的に顕彰し、学院としてその活動の全体を把握する体制を整える。	C	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆	小項目 1.0.1	1.0.1 キリスト教主義教育を行うための組織・体制は適切か。 (説明) 全学部において、キリスト教科目が必修科目として設定され、すべての学生がキリスト教の基本知識・理解を学ぶ機会が整えられた教育課程、またキリスト教的世界観・人間観に触れる機会として各学部にて、また協力して学部合同のチャペルが行われる体制が維持されている。大学院でも西宮上ヶ原及び大阪梅田キャンパスでそれぞれ週1回のチャペルアワーが提供されている。これらは建学の精神、そして学院・大学の歴史・伝統を学ぶ機会として重要な役割を担っている。このために各学部専任の宗教主事が、また6学部で宣教師が置かれてキリスト教主義教育の責任を担っている。現在、西宮上ヶ原・神戸三田・聖和ほかの複数のキャンパスでのプログラムを実施するにあたって生じる問題に対処するために大学宗教主事会において検討を行っている。チャペルアワー及びキリスト教行事の効果測定する手段については、コメント用紙を配付し出席人数を把握しているものの、これを全体で調査・集計するところまでは至っていない。
	小項目 1.0.2	1.0.2 キリスト教主義教育は、本学の使命・目的に照らして適切に行っているか。 (説明) 全学のキリスト教関連行事は、大学宗教主事を中心に宗教主事会において調整・実施をしている。また、キリスト教建学の精神及びミッションを構成員に周知・確認していくとの課題では、院長をコンビーナとしたミッション推進委員会のメンバーに、学長補佐・大学宗教主事が加わり、建学の精神等を簡潔に伝えるための小冊子を2011年秋に配付できるよう準備している。
	その他	

《評価指標データ》

チャペルの種別と開催回数

在学生のうち、キリスト教主義教育について、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思う人の比率

在学生のチャペルへの出席頻度

在学生のうち、キリスト教主義教育について、チャペルに出席したことが自分にとって有意義だったと思う人の比率

卒業生のうち、大学時代にキリスト教関連科目やチャペルで学んだことや経験が、現在の生活に役立っていると思う人の比率

卒業生のうち、関西学院でキリスト教に触れたことで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けたと思う人の比率

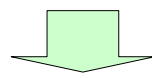
宗教センターの活動実績

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 1.0.1	
☆ 小項目 1.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

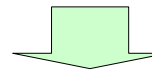
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 1.0.1	
☆ 小項目 1.0.2	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目 1.0.1	
☆ 小項目 1.0.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目 1.0.1	
☆ 小項目 1.0.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	目標2については、その指標としてあげたプログラムの人数の増加が把握されているわけではないが、浸透・展開の基礎となる、建学の精神等を伝えるための小冊子の準備が具体的に進みつつあるので、進捗評価を「B」としている。
--------------	---

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「キリスト教主義教育」が大学のミッションの骨格を構成している観点から、それを全学的に推進することは非常に重要な点でありしっかりと取り組む必要があると考えます。具体的に「建学の精神を伝える小冊子の作成」が進んでいることは優れていると思われます。しかし、3年目を迎えており、全体として、もう少しスピードアップした進捗が望まれます。

【学内委員】

○目標2について進捗評価がCからBに変わっていますが、その根拠に「建学の精神を伝える小冊子の準備」を挙げておられますが、これは目標の指標にあげられている「参加者数の把握」や「学院構成員の半数を超える出席者の奨励」からは内容が大分ずれています。目標の進捗評価は挙げられた指標の達成度でなされるべきではないでしょうか。

○小項目1.01で、出席人数は把握しているが、全体で調査・集計するところまで至っていないとありますが、人数の集計程度は簡単にできるのではないのでしょうか。

○キリスト教主義教育の効果の指標について出席者数など量的なものに偏っている印象を受けます。質的な指標も考慮されても良いのではないのでしょうか。

○カレッジ調査の「在学生のうち、キリスト教主義教育について、関西学院でキリスト教に触れることで、自分自身の考え方や生き方に影響を受けていると思う人の比率」など「評価指標データ」にあげられているものは本項目を評価する上で参考になると思います。活用されてはどうでしょうか。

○昨年度の記述を整理され、簡潔に、よりの確になりました。

○関西学院の根幹であるキリスト教主義教育を行う組織・体制が確立されています。

○各キャンパスにおいてチャペルアワーや各種プログラムが実施されていることは評価できます。

○現状説明で課題が記述されています。改善すべき事項に記述することが求められます。

○学部と同じ説明となっておりますが、それで大学院のキリスト教主義教育の説明として成り立っているのでしょうか。また根拠データも大学院独自のものはありません。それをもってどのように評価できたのか不明です。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・「指標」は、より具体的に修正していく（企画目標数、参加者目標数など）ことを検討してください。

・目標1. 3についての進捗評価は「B」ですが、現状説明においてこれらについて記述を加えていただければなおわかり易い現状説明になると思います。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

追加記述なし。

☆